

序論: 愚かに思える十字架のことばによって救われた私たち

- 十字架の福音は、この世の人にとっては「愚か」に見える。
- それでも神様はその「愚かさ」を用いて救いを与えられた。
- では、そのような救いを受けた私たちは「何者」なのか？

1. 召しに対する問題定義

(v.26)

- 「召し」とは、【主】に目的をもって呼ばれたこと。偶然ではない。
- この世の基準では成功者ではない者たちが召されている。
- コリント教会の例: 多くは無学、身分が低く、貧しかった。
- それでも【主】はあえてそのような者たちを召された。
- 実際は、社会的弱者だけでなくすべての者が【主】の前では塵にすぎない者である
 - 補足聖句: 詩篇 103:14「私たちが土のちりにすぎないことを…」

2. なぜ弱い者が選ばれたのか

(vv.27-29)

- 神様は「愚かな者・弱い者・無に等しい者」を選ばれた。
- 目的: 誰も【主】の前で誇ることがないようにするため。
- この世の誇り(成功、能力、地位)は救いの条件ではない。
- 成功や結果を出すこと、またそのための能力を否定しているわけではない
 - (タラントの例話: マタイ 25 章参照)。
- 救いの本質は「神様の選び」による。

3. 私たちの誇りはキリスト

(vv.30-31)

- キリスト・イエスにある者として、私たちは新しい存在とされる。
- 【主】は私たちに「義・聖・贖い」を与えてくださる。
- それこそが神様の計画であり、神様の知恵である

義: 罪深くてもキリストによって神様に「よし」と認められること。

聖: 不完全であっても神様のものとして聖別され、成長していくこと。

贖い: 十字架の贖いと最終的に完全な救いが与えられること。

- だからこそ、誇るべきは「【主】」である(v.31)。

結論: 弱さの中に表れる【主】の栄光

- 星野富弘さんの証し:「苦難さえも喜ぶ」聖句に心打たれ、洗礼を受ける。
- 口に筆をくわえて描く作品が多くの人を励ました。
- 彼はまさに「弱さの中に働く神様の力」の証し人。
- 私たちも、それぞれの仕事や家庭の中で、【主】を誇る者とされよう。
- 自分の成功や失敗に左右されず、【主】がしてくださった恵みを誇る者とされたい。

応答のとき: 黙想と具体的な応答へ

問いかけ:

- あなたはなぜ【主】に呼ばれたのでしょうか？
- 神様はあなたのどんな姿を見て召されたのでしょうか？
- あなたはこれまで何を誇りとして生きてきましたか？
- これから何を誇りとして生きていきたいですか？

しばらく静まり、心の中で【主】に応答しましょう。